

第6学年社会科学学習指導案

指導者 菅原 修一

I 単元名 幕府の政治と人々の成長

II 単元について

- 子どもたちは、前単元「全国統一への動き」の学習において、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の3人の武将による天下統一の様子について、①したこと（国内の政治、反対勢力への対応、キリスト教への対応、貿易や外交など）、②何のために（理由・願い）、③エピソード（幼少時の生い立ちなど）を調べる視点として追究してきた。この学習を通して、子どもたちは、天下統一は3人の武将が互いにかかわり合いながら、それぞれの役割を果たすことにより、成し遂げられたことを理解するとともに、このような歴史の流れの中で成立した江戸幕府が、今後どのように世の中を治めていくのかについて興味をもち始めている。

そこで、本単元では、江戸幕府の政策を調べることを通して、幕府がどのようにして幕藩体制を整えていったかをとらえさせていきたい。

- 江戸幕府は、1603年に徳川家康が江戸に開いて以来、1867年に15代将軍徳川慶喜が政権を天皇に返すまで約260年間続いた長期政権である。

政権を維持するための政策として、徳川家光は、全国200以上の大名を親藩、譜代、外様に分け、江戸を守る形で大名を配置した。配置後も領地の入れ替えを行ったり、藩の取り潰しを行ったりして大名を従わせた。また、1635年に改められた「武家諸法度」では、新たに参勤交代の制度を定めた。この制度により、大名を1年おきに江戸と国元で生活をさせ、妻や子は人質として江戸に住まわせた。また、参勤交代の費用、江戸屋敷に対する費用を藩に負担させたり、築城や土木工事の費用、軍役の負担も藩に割り当てたりして、藩の財政を圧迫させ弱体化を図った。

江戸幕府の政策は、大名に対してだけに限らない。「慶安の御触書」では農民の統制を行った。農民が村を離れたり、農業以外の仕事に就いたりすることを禁じ、年貢を納められないものや罪を犯すものが出ると共同で責任を負わせることで、年貢の確保に努めた。

1639年には、キリスト教の影響による島原・天草一揆をきっかけとして鎖国を行った。幕府はキリスト教を広めるスペイン、ポルトガルとの貿易を禁止し、オランダと中国との貿易を長崎の出島に限って行い、幕府が情報や貿易の利益を独占するようにした。しかし、このような鎖国政策のもとでも、対馬藩（長崎県）、薩摩藩（鹿児島県）、松前藩（北海道）が、それぞれ隣接する地域と使節の行き来や交易を通してつながりをもっていた。

このように、江戸幕府は、大名や農民、外国に対して厳しい政策を行うことにより幕藩体制の安定を図り、長期にわたって政権を維持した。

- 子どもたちは、歴史学習に興味を示し、代表的な人物の業績や文化遺産などについて意欲的に追究活動を行っている。また、歴史的事象に対する自分や友達の疑問を大切にしながら、既習や経験などをもとに予想を立て、各種資料を上手に使いながら調べる活動を積極的に行っている。しかし、調べたことを出し合い、歴史的事象の意味を考える場面では、表面的な理解にとどまり、追究活動に深まりが見られないことがある。さらに、とらえた歴史的事象の価値について、自分なりの考えをもつことができない子どもも少なくない。

そこで、本単元では、子どもたちがより主体的に歴史的事象にかかわり、その事象がもつ意味や価値について深く考えることができるようにしていく。そのために、単元の導入場面では、子どもたちに単元を貫く学習問題を生み出させ、それに沿って江戸幕府の幕藩体制の確立に向けた取り組みを追究させていく。また、一単位時間においては導入資料を大切にしながら、子どもたちに問いをもたせて調べ活動を行わせ、調べたことの交流を通して、大名統制や参勤交代、身分制度、鎖国、鎖国下の日本について明らかにし、それぞれの政策が大名や人々、日本に与えた影響について考えさせていく。そして、子どもたちに、それぞれの政策について様々な立場や側面から評価をさせていく。このような学習活動を通して、子どもたち一人一人に江戸幕府の政治について深くとらえさせていきたい。

III 単元目標

- 1 江戸幕府が大名や外国、農民や町人に対して行った政策について関心をもち、進んで追究しようとする。【関心・意欲・態度】
- 2 江戸幕府の大名統制と参勤交代、鎖国、身分制度を行った目的と、その政策の影響について考え、表現することができる。【思考・判断・表現】
- 3 大名統制と参勤交代、身分制度、鎖国、鎖国下の様子などについて、各種資料を活用して調べることができる。【観察・資料活用の技能】
- 4 江戸幕府が政治の安定を図るために行った大名統制と参勤交代、鎖国、身分制度について理解することができる。【知識・理解】

IV 指導計画及び評価計画（全6時間）

【関】：関心・意欲・態度 【思】：思考・判断・表現 【技】：技能 【知】：知識・理解

段階	時	目標	学習活動	資料	評価規準と評価方法
問題の把握	1	大名行列を手がかりに、江戸幕府の政治のしくみについて関心を高め、追究への意欲をもつことができる。	① 大名行列の想像図を見て、気づいたことや疑問に思ったことを発表する。 ② 資料から、江戸に向かう大名行列の様子ルートや日数について読み取り、疑問に思ったことを発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">なぜ、大名は行列をつくって江戸を目標にしたのだろう。</div> ③ 大名が行列をつくって江戸を目標とした理由を予想し、発表する。 ④ 予想から、大名行列と江戸幕府の政治との関係に気づき、学習問題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">江戸幕府は、どのような政治を行ったのだろう。</div>	・絵図：大名行列 ・読み物：大名行列 ・地図：江戸までの道のり	○ 大名行列をきっかけに、江戸幕府の政治について関心を高め追究しようとしている。 【関→発言・ノート】
	問	1	大名の配置や武家諸法度、参勤交代の制度を調べ、江戸幕府の大名支配のしくみをとらえることができる。	① 将軍にあいさつする大名たちの様子を描いた絵図や家光の言葉から、気付いたことや疑問に思ったことを発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">幕府は、どのようにして多くの大名をしたがわせたのだろう。</div> ② 資料から、幕府が大名を支配するために行ったことを調べる。 ③ 調べたことを出し合い、大名の配置、武家諸法度、参勤交代の内容と目的を明らかにし、幕府の大名支配のしくみについてまとめる。 ④ 幕府の大名支配について感想を話し合う。	・絵図：将軍に挨拶する大名たち ・読み物：家光の言葉 ・地図：大名の配置 ・読み物：武家諸法度
問題の本質	1	鎖国を行った理由を調べ、それをもとに江戸幕府の鎖国政策について自分の考えをもつことができる。	① 長崎の出島の絵図や鎖国までの歩みを表した年表から、分かることや疑問に思ったことを発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">幕府は、なぜ鎖国をしたのだろう。</div> ② 資料から、鎖国を行った理由を調べる。 ③ 調べたことを出し合い、幕府の鎖国を行った理由についてまとめる。 ④ 幕府の鎖国政策について感想を話し合う。	・絵図：長崎の出島 ・年表：鎖国までの歩み ・読み物：島原・天草一揆 ・肖像画：天草四郎 ・絵図：絵ふみ	○ 調べたことから、幕府が鎖国を行った目的をとらえている。 【知→発言・ノート】 ○ とらえた鎖国を行った理由をもとに、幕府の鎖国政策について、自分なりに評価している。 【思→発言・ノート】
	追	1	江戸時代の近隣諸国との交流を調べ、鎖国政策のもとでも、使節の行き来や交易が行われていたことをとらえることができる。	① 地図から、オランダや中国以外の他の国や地域との交流があったことをとらえる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">鎖国の中で、外国とどのような交流が行われていたのだろう。</div> ② 資料から、朝鮮、アイヌの人たち、琉球王国との交流について調べる。 ③ 調べたことを出し合い、交流の様子と、その影響についてまとめる。	・地図：長崎以外での交流 ・絵図と読み物：朝鮮 ・絵図と読み物：北海道 ・絵図と読み物：沖縄
究	1	百姓や町人などに行った幕府の政策を調べ、江戸幕府の人々を支配するしくみをとらえることができる。	① 年貢を納める百姓の様子を描いた絵図や徳川家康の言葉、江戸時代の人口の割合のグラフから、分かることや疑問に思ったことを発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">幕府は、どのようにして人々を支配していたのだろう。</div> ② 資料から、江戸幕府が人々を支配するために行ったことを調べる。 ③ 調べたことを出し合い、百姓や町人などに幕府が行ったことを明らかにし、幕府の人々を支配するしくみについてまとめる。 ④ 幕府の人々を支配するしくみについて感想を話し合う。	・絵図：年貢を納める百姓 ・読み物：徳川家康の言葉 ・グラフ：人口の割合 ・読み物：百姓に対するおふれ書き	○ 資料から、百姓や町人、その他の人々に行った江戸幕府の政策を調べている。 【技→ノート・発言】 ○ 調べたことから、江戸幕府の人々の支配のしくみと目的をとらえている。 【知→発言・ノート】
	まとめ	1	江戸幕府の3つの政策をふり返り、幕府の政治について自分の考えをもつことができる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">江戸幕府の政治についてまとめよう。</div> ① 幕府が大名支配、鎖国、人々の支配を行った目的についてふり返る。 ② 大名支配、鎖国、人々の支配の目的を結び付け、幕府の政治についてまとめる。 ③ 幕府の政治について感想を話し合う。	・掲示：大名支配 鎖国 人々の支配

V 本時の指導

1 教材と子ども

前時までに子どもたちは、大名行列の絵図をきっかけに、江戸幕府の政治のしくみに関心を持ち、大名の配置や武家諸法度、参勤交代の制度を調べることを通して、幕府の大名支配のしくみを理解してきた。

本時は、大名統制と並び江戸幕府の幕藩体制を確立する上で重要な政策である鎖国について学習する。この学習を通して、幕府の鎖国政策の目的を明らかにしたり、それをもとに鎖国の価値について様々な側面から考えさせたりしていきたい。

そこで、問題把握の段階では、長崎の出島の絵図と、1543年のポルトガル人による鉄砲伝来から1641年のオランダ商館を出島に移すまで、日本と外国の交流の様子がだまかに書かれた年表の読み取りから、子どもたちに「江戸幕府は、なぜ鎖国をしたのだろうか。」という問題意識を醸成していく。

問題追究の調べたことを出し合うところでは、将軍を頂点とする幕府体制とキリスト教の「神のもとではすべての人が平等である。」という教えの比較を通して、幕府がキリスト教を禁止したかった理由、スペインとポルトガルとの交流を止めた理由を具体的にとらえさせていく。また、島原・天草の一揆や絵踏みの様子について、資料から詳しく読み取らせることにより、幕府のキリスト教に対する厳しい姿勢をとらえさせていく。さらに、外国の情報や貿易の利益を独占することによる幕府のメリットを考えさせることにより、幕府が鎖国を行いたかったもう一つの理由を具体的にとらえさせていく。このように一つ一つの事実を明らかにしていくことにより、キリスト教の禁止、外国の情報や貿易の利益の独占という、幕府が鎖国を進めた2つの大きな理由をとらえさせていく。

問題追究の最後では、とらえた事象の意味をもとに、子どもたちが鎖国の価値(よさ・問題点)について評価できるように、「このような理由で幕府が行った鎖国についてどう思いますか。」という発問をしていく。そして、根拠を明らかにして互いの判断結果を交流し合うことにより、事象の意味がもつ価値について、幕府、人々、日本、外国など、様々な立場や側面から判断することができるようにしていく。

まとめの段階では、鎖国の価値についての交流を活かしながら、江戸幕府が行った鎖国についての自分なりの考えをまとめたり、発表したりできるようにする。

このような学習活動を通して、江戸幕府が鎖国を行った理由、そして鎖国の価値を、子ども一人一人がより深く、そして広くとらえたり考えたりすることができるようにしていきたい。

2 ねらい

- 江戸幕府が鎖国を行った理由について調べ、それをもとに鎖国政策の価値を自分なりに考えをもち、表現することができる。

3 評価計画

	評価規準	具体的評価規準A	具体的評価規準B	未達成の場合の手立て
評価1	江戸幕府が鎖国を行った理由についてとらえている。 【知識・理解】	幕府が鎖国を行った理由を、キリスト教との考えの違いや、外国の情報と貿易の利益の独占することのメリットなど、具体的な事実からとらえている。	幕府が鎖国を行った理由を、キリスト教の禁止と、外国の情報と貿易の利益の独占という幕府のねらいからとらえている。	板書をもとに、幕府が鎖国を行った理由を、再度ふり返えらせる。
評価2	江戸幕府が行った鎖国政策の価値について自分なりに考え、表現している。 【思考・判断・表現】	とらえた鎖国を行った理由をもとに、鎖国政策の価値について、様々な立場や側面から考え、表現している。	とらえた鎖国を行った理由をもとに、鎖国政策の価値について考え、表現している。	鎖国を行った理由や、友達の考えを参考にしながら、鎖国の価値について考えるように促す。

4 展開

段階	学 習 活 動	時間	支援と評価 (◇: 研究に関わる支援 ○: 評価)	資 料
問題の把握	<p>1 絵図「長崎の出島」から、幕府がオランダや中国と長崎で交流していたことをとらえる。</p> <p>2 年表「鎖国までの歩み」から、幕府がオランダと中国以外の国々との交流を止めたことをとらえる。</p>	7	<ul style="list-style-type: none"> 土地や人の様子、国旗、文字などに着目させながら、長崎の出島でオランダと、港で中国と交流していたことに気付くことができるようにする。 幕府がポルトガルやスペインと交流を止めたこと、交流する国や場所を制限する鎖国を行ったことから、問題意識をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵図：長崎の出島 年表：鎖国までの歩み
江戸幕府は、なぜ鎖国をしたのだろうか。				
問題の追究	<p>3 幕府が鎖国を行った理由について予想し、発表する。</p> <p>4 教科書や資料集から、幕府が鎖国を行った理由について調べる。</p> <p>5 調べたことを出し合い、幕府が鎖国を行った理由を明らかにする。</p> <p>○キリスト教を禁止したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 信者が団結して幕府の命令をきかなくなることをおそれた。 キリスト教の教えが幕府の政治を乱すものになると考えた。 →神のもとではすべての人が平等 ↓ キリスト教を取り締まる。 →島原・天草一揆、絵ふみ 日本人が海外へ行くこと、海外から帰ることを禁止する。 キリスト教を広めるおそれのないオランダと中国とだけ長崎で貿易をする。 <p>○外国の情報と貿易の利益を独占したい。</p>	3 8 12	<ul style="list-style-type: none"> 出された予想を板書で整理し、追究の視点をもつことができるようにする。 追究の様子を見取りながら、資料の活かし方やノートまとめ方のよい子どもを価値付けていく。 将軍を頂点とする幕府体制との比較から、キリスト教の教えが幕府にとって好ましくないものであることをとらえさせる。 島原・天草一揆や絵ふみの様子から、キリスト教に対する幕府の厳しい姿勢をとらえることができるようにする。 日本人の海外へ行くことや海外から帰ることを禁止したり、オランダとの貿易を長崎の出島に限ったりすることの効果を考えさせ、幕府の意図をとらえることができるようにする。 外国の情報や貿易の利益を独占することによる幕府のメリットを考えさせる。 <p>○ 幕府が鎖国を行った理由を、キリスト教の禁止と、外国の情報と貿易の利益の独占という幕府のねらいからとらえている。 【評価1 発言・ノート】</p>	<ul style="list-style-type: none"> グラフ：キリスト教信者の増加 読み物：島原・天草一揆 肖像画：天草四郎 絵図：キリスト教の取りしまり 写真：絵ふみ
まとめ	7 本時のふり返りを行い、発表する。	7	<p>○ とらえた鎖国を行った理由をもとに、鎖国政策の価値について考え、表現している。 【評価2 発言・ノート】</p>	
	6 幕府が行った鎖国政策の価値について考え、話し合う。	8	<p>◇ 「このような理由で鎖国を行った幕府をどう思いますか。」と発問し、鎖国の価値について、根拠を明らかにしながら、幕府、人々、日本、外国など様々な立場や側面から評価できるようにする。</p>	